オレにも言わせろ！

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

Vol.92 ベンツ・クオリティね〜



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

Illustration by Kazushige Akita

11月にドイツ・ハノーバーで開催された農機具展に行ってきた。

まずはお礼を言いたい。キセキ北海道の新恵弘さんには1年前でもホテルの予約が難しいのに、近郊の町でキセキと取引のあるLELY社のお力添えもあり、快適かつ安全に滞在することができた。

そして自分の将来に描く農業の発信源がそこにあるかを見極めるツアーでもあった。結論から言う。**ドイツ・クオリティもこんなもんでしょ、ということだ。**

ドイツ本国とは違うベンツの海外向け仕様

4年ぶりに訪れたドイツの旅は早朝のフランクフルト空港からレンタカーを借りることから始まった。9人乗りベンツ製ビトーでユーロ6排ガス規制を受けたであろうディーゼルエンジンのオートマチックは一路4時間ほど北にあるハノーバーの会場を目指した。

4年前と6年前にはオービスにしっかりナンバーを読み取られ、罰金がハーツレンタカーから来たので、今回は周りの車の流れと速度標識を注視して最高速170kmで安全運転をするのは当然である。

それにしても扱いづらい純正カーナビだった。まず画面のサイズが5・8インチとスマホ程度しかない。画面表示を英語にしてもドイツ語音声のままなので、ハーツの担当者に頼んだところ、画面表示の変更と音声は別とのこと。つまり視覚からはフランス語で、耳からはロシア語が可能ということになる。多言語が混在するヨーロッパならではの発想だ。

運転席のシートは手動でリクライニングするが、助手席は固定式でビクとも動かないので快適からは程遠い。後席のドアは前後に大きく開くが日本車やアメリカ車のように自動の開け閉めができない。エアコンは付いているが後席でコントロールできない。北海道よりは暖かいドイツなので困ることはないが細かい装備は貧弱だ。

エンジンのパワーは認めるが、シフトレバーがハイテク過ぎてパーキングからリバース、その逆の操作がやたらボタンを押さないと表示が変わらない。下車後は心配なので車を揺さぶってパーキングを何度か確認した。

もしこの車が日本でレンタカーとして貸し出されたらどうなるか。間違いなく半年後には海外中古市場に出て、二度と購入するレンタカー会社はないだろう。なんでも1月から国内販売するようだが、本国仕様とはまったく別物のようだ。

ドイツ本国仕様は動けばいい、海外はゴージャス仕様になるのか。所詮、**ベンツ程度で幸せを感じ取ることができる小作人根性**がす

り込まれた国民性、もちろん日本人のことではあるが、もう一度クオリティとはなんなのか考え直してもいいのでしょうね。

ドイツ人は運転マナーがいいなんて本当かよ

日本出発の前日に米国の取引先でカルビーとも取引のあるＲＤＯ社から、今週末にハノーバーに行くのか?と連絡が入り、明日行くと伝えたところ「5番の建物にＲＤＯのブースがあるからよかったら寄ってくれ」と言われた。

行く前に小道具を用意した。上にはミネソタの名前が入ったトレーナー、手にはＲＤＯのロゴ入りのドリンク・ホールダーを持ってブースの前にわざとらしく数秒立ち止まった。中にいたＲＤＯの社員全員が私を見て「ワォ‼」。期待を裏切らないウエルカムになった。

そこには長年の知人ボブの2軒隣に住むコンバイン・コントラクターの息子がいて、毎年コンバインを15台買っているので、ご褒美で連れてきてもらったと語っていた。

ブース内にいたオーストラリア担当者に「アバードさんを知っているか?」と聞いたところ、「もちろん」。ロンリー・プラネットは実に狭い。

渋滞を避けるため早めに待ち合わせ場所に向かったが、ラセン式の駐車場から一般道に出るのに1時間以上かかった、距離にしてたった２００mくらいだ。

それにしてもマナーが悪い。ドイツ人の運転マナーは良いという評判だが、その根拠はどこから来るのだろうか?

我々の車が主車線にいても、その車列になんの前触れやウインカーや手を挙げる挨拶もなしに、気持ちよく思い切って突っ込んでくるのだ。

運転席の顔を見てもこちらに挨拶もしない。あるときは紳士風、あるときは金髪・ブルーアイの若い女性だ。そんなことが何度も何度も続いた。さすがにカチンときたので車から降りて「お前らマナーを知らないのか」と控えめに怒鳴っても目線すら合わせない自己中連中だ。清教徒が作った米国だったらその場で射殺物である。

親からどんな常識学んだのだ、だからお前たちの爺さんとひい爺さんは2回も戦争を始めて、2回とも負けたことを忘れた非常識の負け組の典型がっっっ!

現地で聞いたパリのテロ事件

最終日に朝食をとっているとＣＮＮがパリでテロがあったと報道していた。今日の会場は自動小銃を構えた官憲で警備されるだろうと思ったが、7万人以上いる会場でセキュリティを含め、治安関係者は誰もいなかったのは不思議だった。**お隣のフランスのことでドイツには関係ないってことか**。

実はその数日後に私の子供が高校の修学旅行で、ベルギーのブリュッセルに滞在することになった。高校生20名と教師、主催旅行会社ＪＴＢ関係者で朝食をとっていたとき、私の子供が席を離れ、戻ってみると携帯のアイフォン6がない。最初はイタズラかと周りに聞いても誰も知らないと言う。隣のテーブルにいた先生に報告して、すぐ自宅に電話が入り、ａｕに連絡したときは1時間が経っていたそうだ。ａｕのオペレーターは慣れた感じでスマホのトラッキングをしたそうだ。

「30分前にＩＣカードが抜かれて２００円相当の通話がありますね、たぶんプロの手口です。ホテルはどこですか?」と聞かれて、ブリュッセルの宿泊先を伝えると「あ～あそこですか」となった。教師とＪＴＢが監視カメラの再生をホテルに要求するか悩んだそうだが、その後の日程と盗難保険にも入っていたので、新しいアイフォン６Ｓを購入しても、おつりが来たので金銭的には痛くはないが、関係者にはご迷惑をおかけした。

結論は、犯人はホテル関係者ということにした。そしてとても大切なことを学んでくれたことに感謝したい。

子供たちは日ごろからアメリカのことが嫌いと言う。少なくとも国籍や言語に関しては米国のよき理解者であるべきなのに「アメリカの白人はバカばかりだ」と言って、はばからない。で今回はヨーロッパ行を選択したが、このざまである。

出発前には「**ヨーロッパ人を信用するな！ いままでお前が接してきたアメリカ人とは違う人種なのだから**」という言葉を何度も口が発酵して酸っぱくなるくらい伝えた。考えてみれば今回のパリのテロ主犯者もブリュッセル出身だ。現地の学校では「テロを起こしてはいけない」と教えているのだろうか?

ＯＥＣＤ40カ国の統計では公的な教育費の割合はベルギーが世界2番目で日本は最下位だそうだ。おかしいって? これは割合の問題であって、総額から来る分母と分子の数字が一ケタくらい違うのでそうなるのだろう。

そうなると分母を大きくして日本の豊かさにより関与できるＴＰＰその後に期待するのは当然である。